

## 嗅覚機能スクリーニングによる認知症の早期発見と予防

浦上 克哉

鳥取大学医学部保健学科 認知症予防学講座（寄附講座）

認知症をきたす代表疾患であるアルツハイマー型認知症（AD）では記憶障害が出現するより前に嗅覚障害が出現する。病理学的にも嗅神経に早期から原因蛋白とされるアミロイドβ蛋白の蓄積が報告されている。我々は、この嗅神経の障害に対してアロマセラピーを用いるアプローチが有効であることを報告している。早期に、この嗅覚障害を発見し病気の進展を防ぐことが期待される。しかし、人間は嗅覚機能が著しく退化した動物であり、自身の嗅覚障害を自覚することはとても難しい。そこで、嗅覚機能の異常を早期に発見するためのスクリーニング検査が期待される。これまでも嗅覚機能検査キットは販売されているが、元々認知症の早期発見を目指したものではない。そのため、認知症の早期発見への精度は十分ではない。そこで、認知症の早期発見のための嗅覚機能のスクリーニング検査の開発が期待されてきた。短時間で負担なく施行でき、有効性が期待できる嗅覚スクリーニングキットが開発された。長年、軽度認知症障害（MCI）を早期発見し予防しようという取り組みを行っているが、もの忘れ検診の段階で施行している認知機能検査への抵抗感が強い方が少なくない。嗅覚検査を併用したものの忘れ検診を行った結果、認知機能検査より嗅覚機能検査の方が抵抗感が少ないという調査結果も得られている。現在、本邦でも疾患修飾薬の認可が視野に入ってきているが、主たる対象はMCIからPreclinical ADと考えられる。MCIからPreclinical ADを早期に見つけるためには、脳ドックでのもの忘れ検診が今まで以上に重要になってくると考える。嗅覚機能のスクリーニング検査キットは、脳ドックでの早期AD発見の切り札になる可能性が期待できる。

### 略歴 浦上 克哉（うらかみ かつや）

昭和63年3月 鳥取大学医学部大学院博士課程修了  
 平成元年4月 鳥取大学医学部脳神経内科・助手  
 平成8年2月 鳥取大学医学部脳神経内科・講師  
 平成13年4月 鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座環境保健学分野・教授  
 平成28年4月 北翔大学・客員教授（併任）  
 令和4年4月 鳥取大学医学部保健学科認知症予防学講座（寄附講座）・教授



#### 【所属学会・認定・資格】

日本認知症予防学会（代表理事・専門医）、日本老年精神医学会（理事）  
 日本老年学会（理事）、日本老年医学会（代議員・指導医）  
 日本認知症学会（代議員・専門医）、日本脳ドック学会（評議員）